

# 04 ジェンダー平等と 女性のエンパワーメント

国内外の識者との交流を重ねながら、ジェンダー平等の推進と女性のエンパワーメントに取り組んでいます。

## 平和の文化と女性展

国連が定めた「世界の子どもたちのための平和の文化と非暴力の国際10年」(2001年～2010年)にあたり、「平和の文化と女性展」を企画・制作。同展は平和学者エリース・ボールディング博士の監修により、「平和の文化」構築のために女性が果たす役割と使命を、豊富な写真とイラストで紹介。2002年から2015年に全国を巡回し、のべ120万人が鑑賞しました。



「平和の文化と女性展」から



エントランスパネル



2014年4月 福岡県

## 監修者 エリース・ボールディング博士より女性たちに贈るメッセージ

女性はいつでも、家庭の中であれ、地域社会であれ“特別な場”を作って、人の話を聞いたり、対話をしたり、差異を乗り越える術を心得ています。あなたも「平和の創造者」になることができます。今、あなたがいる場所で「平和の文化」構築への挑戦を開始して下さい。

エリース・ボールディング 平和学者・社会学者(1920-2010)

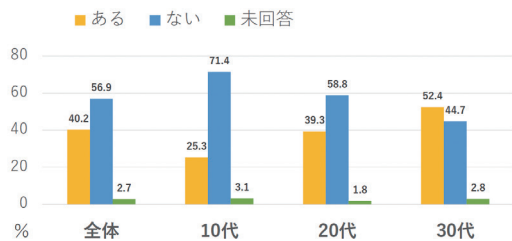
ノルウェー・オスロ生まれ。米国・ダートマス大学名誉教授、国際平和研究学会事務局長、国連大学理事などを務め、ユネスコが提唱した「平和の文化」の推進に貢献した。



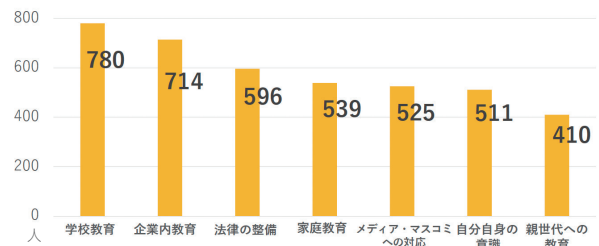
## ジェンダーに関する意識調査

2019年9月～11月、全国の中中学生から30代までの女性を対象に「SDGsとジェンダー平等」に関するアンケート調査を実施。1,363人から回答を得ました。女性に不利益な環境が当たり前になっている現状や、それを自身の問題として捉えなおす意識変革の重要性が浮きぼりとなりました。また、ジェンダー平等を達成するためには、学校や企業における教育、法律の整備が必要との意見が多く寄せられました。

Q あなたは自分自身の体験として、女性であることでの不利益を感じたことがありますか？



Q ジェンダー平等を達成するために何が大事だと思いますか？（複数選択可）



「ジェンダーに関する意識調査」結果報告より

## フォーラム

### SDGs フォーラム 「女性のリーダーシップが未来をひらく」



2022年3月、オンラインで全国を結びフォーラムを開催。各地の代表3名が、様々な分野でSDGsの推進に貢献する様子を報告しました。国連開発計画（UNDP）近藤哲生駐日代表は、気候変動をはじめ多様な危機を前に、国家だけでなく「人間の安全保障」の観点に立つ重要性を述べ、脅威に立ち向かう連帯を育む女性の力に期待を寄せました。

### 3.8 「国際女性の日」記念 「平和の文化と女性」フォーラム



北京での第4回世界女性会議から15年、「女性・平和・安全保障に関する国連安保理決議第1325号」の採択から10周年にあたる2010年「国際女性の日」、同年2月「平和の文化と女性」フォーラムを開催。家庭、地域、社会における「平和の文化」構築に、女性の力が不可欠であることを確認しあいました。

### 「女性・平和・安全保障に関する国連安保理決議第1325号」

国連安全保障理事会が2000年10月に採択した画期的な決議。国連加盟国に対し、政策決定を含むすべての取り組みに女性の平等かつ完全な参画を確保するよう要請しています。また、女性が紛争解決・予防、和平交渉、平和維持、平和構築に主体的に参画することの重要性、女性を紛争下の性的暴力から保護し、その権利擁護を促進すること、ジェンダーの視点に立って人道支援にあたることの必要性などを明記しています。これに取り組むため、日本を含む107カ国が行動計画を策定しています。（2023年4月現在）

## 講演会

### 未来を作る女性の力 —ジェンダー平等社会への課題



2020年10月、オンラインで開催した講演会では、SGI国連事務所（ニューヨーク）のアイビー・クック氏が、国連におけるジェンダー平等に関する取り組みとSGIの貢献を紹介。東洋哲学研究所主任研究員の栗原淑江氏は、仏教が示す男女平等の思想に言及し、女性のエンパワーメントが社会変革につながると語りました。

### ジェンダー平等について



2019年12月、公益財団法人「ジョイセフ」アドボカシー・マネジャーの斎藤文栄氏が、日本や世界で女性の権利が奪われている事例や、ジェンダー平等の進捗状況を概説。制度や推進計画の整備とともに、性別による役割分担などの固定観念を見直す重要性を訴え、ジェンダー平等を身近な課題と捉え、すべての人が生きやすい社会の建設をと語りました。

### 女性のエンパワーメントが社会を変える



2017年11月、UN Women 日本事務所 福嶋加代子所長は「UN Women」の活動を概説。ジェンダー平等と女性のエンパワーメント促進のためには法の制定だけでなく、市民団体などと協力しての実質的な推進が必要であると訴え、同機関が進める「He For She」キャンペーンを紹介しました。

### 平和の文化講演会 —災害復興と女性



2013年2月、静岡大学の池田恵子教授は、災害復興にあたってはジェンダーの視点を持つこと、特に女性の参加が不可欠であると強調。弱い立場にある人が災害被害をより大きく受けやすい現状を変えるには、日常的に地域を知り、暮らす人々の多様性を尊重し、人の絆を強めることが大切であると語りました。

※講師の所属・肩書は開催当時



## 女性 2000 年会議（北京+5）への参加、支援イベント



女性2000年会議にて(2006年6月 ニューヨーク)

2006年6月5日、国連の特別総会「女性2000年会議—21世紀に向けての男女平等、開発、平和」に、女性平和委員会は世界188カ国、約4,000人の女性たちとともに参加し、分科会などで意見交換。

また会議に参加できなかった市民のために、アメリカSGIのニューヨーク文化会館で、「北京プラス5」の報告会を開催。約400人の女性とジェンダー平等に関心を持つ男性が参加し、パリのユネスコ本部および、カンボジア、ガーナ、ペルー、ウズベキスタンから5人の活動家や専門家がスピーチ。全体会議の後には各種分科会が続き、活発な討議を行いました。

## ウィメンズプラザを開催（1981-2002）

結成当初から20年余にわたり、ウィメンズプラザを開催しました。全国各地で身近なところから女性たちの平和意識を深めようと、多様な形態で女性のエンパワーメントを推進しました。

### ◆ ウィメンズプラザ「平和講演会」（1981～2002年）

「女性と平和を考える」などのテーマで、専門家による「平和講演会」を開催（通算108回）。講演内容を収録した書籍も出版した。

### ◆ ウィメンズプラザ「平和主張のつどい」（1983～1990年）



『平和の大地』

“わたし発”の平和運動を発信する場として「平和主張のつどい」を開催。代表的な主張を、書籍『平和の大地』として発刊した。

### ◆ ウィメンズプラザ「平和フォーラム」（1990～2002年）

各分野の専門家をパネラーに迎え「平和フォーラム」を開催し、多角的に平和へのメッセージを発信した。

# 05 SDGsの取り組み

“誰も置き去りにしない”平和な世界を目指して、国際社会が推進する持続可能な開発目標(SDGs)の普及活動、目標達成への取り組みを多角的に行っています。



## フォーラム

### 未来をひらく SDGs フォーラム

2022年より、SDGsの周知と達成を目指し、全国様々な単位でフォーラムを開催。識者・専門家を招いての講演会、勉強会、映写会のほか、目標達成に貢献する取り組みや体験を共有するなど、内容は多岐にわたっています。



2023年6月、福岡でのフォーラムでは、講演「半径2kmの栄養循環とSDGs」や活動報告があった

2023年2月、沖縄でのフォーラムは「ファッションの力で世界を変える」とのテーマで開催



## 講演会

### 気候危機と私たちの使命

2021年2月開催。掛川三千代創価大学准教授は、地球全体に深刻な影響を及ぼす気候変動の危機的状況を、様々な角度から詳細に解説。国際社会、政府、企業など、あらゆる分野における変革とともに、私たちが日常の中で意識と行動を変える努力の必要性を訴えました。

### SDGsの達成へ“誰も置き去りにしない”国際社会の取り組み

2016年8月開催。根本かおる国連広報センター所長は、多分野にわたり複雑に絡み合う国際社会の課題を概説し、以下のように訴えました。



私たちの暮らす日本にも、子どもの貧困やジェンダー、異常気象など、さまざまな問題があります。途上国も先進国も含めた国際社会共通の目標を掲げたのがSDGsです。

17それぞれの目標は互いにつながり、関連しています。1つの目標の進展は、ほかの目標達成にも大きく影響します。SDGsに取り組むのは、国連や加盟国だけではありません。市民社会、団体、企業、そして一人一人が自分に何ができるのかを考え、みんなで実現していきたい。そのためのSDGsです。

## 学習ツール

### 国連の「ACT NOW」を支援

国連が、個人でできる気候変動対策を呼びかけるキャンペーン「ACT NOW」。これを解説する動画を作成し、意識啓発に努めています。



こちらからご覧になれます

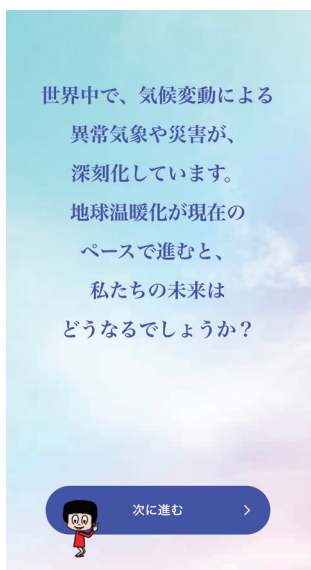


国連広報センターHPより

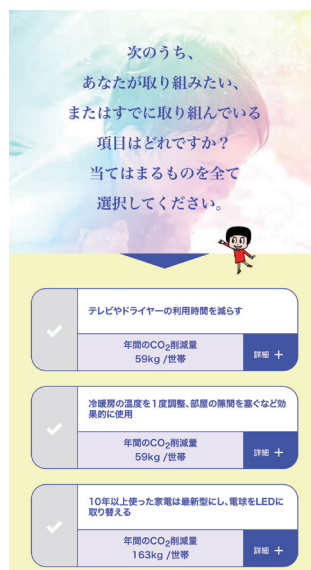
### 「マイ・チャレンジ10」の推進

創価学会が制作した、気候変動・地球温暖化への関心を高めるためのウェブサイト「マイ・チャレンジ10」を活用しています。「ACT NOW」の10項目を、日常でできる具体的なエコアクションとして“10個以上のチャレンジ”を呼びかけています。また、エコアクションを1年間続けた場合のCO<sub>2</sub>削減量がわかり、ワンポイントアドバイスももらえます。

まずはクイズに挑戦



マイ・チャレンジを選択!



CO<sub>2</sub>削減量が分かる



こちらから  
ご覧になれます